

常照

第 811 号

正信偈に私を聞く

「集合写真ができたら、まず自分を見る。自分が良く写っていると、うまく撮れているという。」

こんな、私の心を見透かされる標語を読んだことがあります。しかしながら旅行にも出にくい今のコロナ禍の状況が、一日も早く落ち着くことを願ってやみません。

中国を旅して

三十年前、日本中が好景気で、海外旅行がとてもはやっていました。黄色い表紙の『地球の歩き方』というガイドブックが若者に人気で、分厚いその中には海外を一ヶ月間、安ホテルばかりを予約なしで旅する貧乏旅行、自由旅行の方法が書いてありました。わくわくしながら計画し、目的地は、政治体制の違いからか、近くて遠い国と言われていた中国に定め、二十歳になった大学二年生の春休み、宿の予約もせず、航空券のみ購入して中国に向かいました。在住の京都からほど近い大阪から上海まで飛行機で三時間。上海、蘇州、杭州など、揚子江下流の水郷地帯

に三週間滞在の旅程です（金欠となり少々短縮）。ガイドブックには、外国人をだまそうとする人も多いと注意書きがあったので、服もカバンも、使い古した粗末な格好で歩き、現地に溶け込んでいたつもりでした。

数日間は新鮮でしたが、日本語は皆無、英語でさえ安ホテルではお互い片言でうまく通じません。五日もすると日本語を話したくてたまらなくなってきました。

一週間ほど経った朝、上海の揚子江、河川敷を散歩中、二十代の男性二人が「こんにちは」と日本語で声をかけてきました。日本語の勉強をしたという現地の人でした。粗末な普段着でもバレていたようです。

怪しく感じ、素っ気なくしてい

ましたが、私の観光にもつきあってくれ、日本語での会話を楽しんでいましたら半日あつという間に過ぎていました。どこかでお昼を食べようと相談すると「僕たちの知っているお店に行こう」と、なりました。

さっきは怪しんで失礼をしたなと後悔し、ごちそうさせてもらおうと、メニューをみて好みやお勧めを聞き、注文します。値段は書いていませんでしたが、庶民の食堂では普通五百円で腹一杯、三人でも最高二千円かと想像していました。しかし食べ終わって会計をするとなんと予想の十倍！貧乏旅行なので拒否すると、「じゃあ相談してくるから」と、奥へ。ほつとしたのもつかの間、今度はぞろぞろ仲間をつれて帰ってきました。

身ぐるみはがされると覚悟した矢先、「半額でもいいが、日本円でほしい」と。安心するやら何やら複雑な気持ちで支払い、店を出ました。

二人は通路の角まで送ってきてくれて別れ際、言うに事欠いて「日本に留学するのでまた会おう」と。腹が立ちろくな返事もせず歩き出しましたが、ふと振り返ると、その二人に浮浪児らしき子ども達が駆け寄っていきましました。どうせ追い払うのだろうと眺めていたら、彼らはポケッタから小銭をつかみ、子ども達に渡しているのです。

宿でガイドブックを読み直すと、当時庶民は外貨の使用が禁止されていたため、直接手に入れなければ海外旅行や海外製品の購入もできないこと、また外国人は税金も

払っていないし裕福だから、特別高額にする場合もある、とありました。

二人はとてもいい人達だったのです。ところが私は自分の思いや都合で、怪しんでみたり、いい人だと思ってみたり、腹を立ててみたり、一人で勝手に右往左往していたということでした。

邪見驕慢悪衆生

親鸞聖人の著された正信偈の中に、「邪見驕慢悪衆生」（じゃけんきょうまんあくしゅじょう）とあります。

自分の都合や勝手な思い込みばかりで、おごり慢（たか）ぶる心をもとより具（そな）えている私たちであったと、親鸞聖人ご自身

が教えに照らされ、うなずかれた言葉です。そしてまさに私の心を言い当てられています。

三十年経ってみても、思い返しては今も何も進歩のない自分自身を見つめ、改めて頭が下がるばかりです。

南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏…



八月の常例布教(ご法話)のご案内

○前期 八月七日(土)～十一日(水)

休 座

○後期 八月十三日(金)～十六日(月)

大阪教区 島上西組 常見寺

講師 村田 朝 雅 師

○場 所 小樽別院内

○時 間 午後二時(法要終了後)～

午後三時半

浄土真宗のみ教えについて布教使にご法話をして頂きます。どうぞお誘い合わせ頂き、ご聴聞に来院ください。席の間隔を保ち、換気実施の上、お待ちしております。

発行所

☎047-0017

小樽市若松一丁目四番十七号

本願寺小樽別院

電話 〇一三四 二二一〇七四四番
FAX 〇一三四 二九一四〇八〇番
テレホン法話 二七一六 一六八番